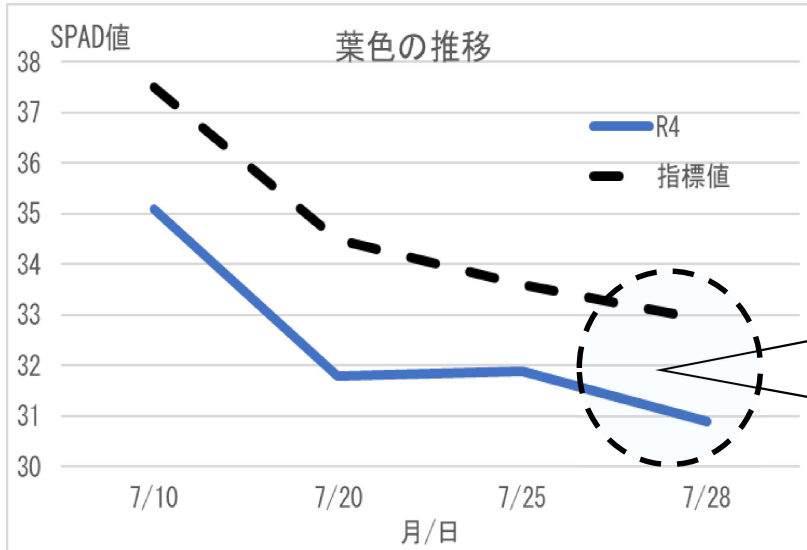


コシヒカリ生育情報 第8号

葉色が薄い！ 後期栄養対策として追加穂肥の活用も！！

1 葉色の推移 (7/28 調査 調査ほ14ほ場平均)



葉色は穂肥施用等により上昇したほ場もみられるが、全体的に指標値に比べ薄いほ場が多い。

後期栄養の不足が懸念

追加穂肥の対応が必要

2 今後の天気 (7月30日～8月29日：新潟地方気象台7月28日発表)

向こう1か月は平年に比べて晴れの日が多く、平均気温が高い確率60%

3 今後の管理のポイント

(1) 3回目穂肥(追加穂肥)の検討

- ア 分施と基肥一発体系いずれの場合も、出穂期の葉色がSPAD値33を下回ると予想される場合、分施体系では出穂期3日前までに、基肥一発体系は出穂期10日前までに窒素成分で1kg/10a程度をめやすに追肥する。
- イ 穂肥は肥効を高めるため、必ず灌水して施用する。

(2) 水管理

- ア 出穂期にかけて稲が水を必要とするため、飽水管理を徹底する。その後も根の活力維持のため、出穂期25日後まで継続する。
- イ フェーン・異常高温の緊急情報に注意し、強風やフェーンが予想される場合はあらかじめ灌水し、障害の発生防止に努める。

(3) 病害虫防除

- ア 葉いもちの発生が各地で確認されている。コシヒカリ BL 以外の品種で葉いもちの発生が見られるほ場は、直ちに粉・液剤による防除を実施する。
- イ 斑点米カメムシの防除は、出穂状況を確認し適期に薬剤防除を実施する。